

令和5年度 いのちの授業 事例集（小学校）【総合的な学習の時間】

掲載数

83

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小6	総合的な学習の時間	防災教育 「広げよう！わたしたちの防災！」	地震や台風、津波、風水害などの災害場面における安全な行動について調べ、友達同士の共有を通して自分たちにできることは何かを考えた。身近なものを活用した簡単な応急手当が手軽なものに驚く様子や家庭での災害への日常の備え（非常持ち出し品）などについて真剣に考える姿が見られた。その後、町を災害から守るための工夫を立体作品に表すことで防災を「自分ごと」と捉え、災害から自分たちの命を守るには、日頃から災害時の被害を想定して事前に準備をすることの大切さについて気づけた児童が多かった。	
2 川崎市	小4	総合的な学習の時間	防災「災害から身を守ろう」	10月にそなエリア東京の施設を見学し、災害が起きた際の避難の仕方や身の守り方について学習した。帰校後、児童が個々に考えた課題について図書室の本やパソコンを使って調べ学習に取り組んだ。分かったことや今後の課題などを保護者に向けて発表した。	中原区役所職員 そなエリア東京職員
3 川崎市	小5	総合的な学習の時間	リーダーとして互いに支えあう意識と力を育成する	来年度、6年生になる子どもたちに、「学校をよりよくする6年生になるにはどうしたらよいだろうか」という問題の解決を目指し、様々なリーダーシップについて考えていく。その中で、玉川大学の「TAP (Tamagawa Adventure Program) 研修」に参加した。「パイプライン」というアクティビティを通し、どうしたら記録が伸びるか話し合う中で、互いのよさや自分たちの課題、様々なリーダーシップの形に気付くことができた。普段主張しない友達の思いがけない一言に感心したり、自分だけでは乗り越えられない障壁に対し、仲間の存在の大切さに気付く姿が見られた。	玉川大学の先生
4 川崎市	小6	総合的な学習の時間	命のかがやき	本校の総合的な学習とタイアップさせて誕生学アドバイザーの講師をお呼びして、学習をした。学習のねらいとして、生命誕生の話を通して、命の大切さを実感させる。また、母親の思い、家族の思いを知り、自分が大切に育てられてきたことに感謝し、命のすばらしさ、尊さに気付く心を育むことができることとしている。実際の授業では、誕生学アドバイザーの話より赤ちゃんの様子や能力、命の神秘、尊さを学んだ。赤ちゃんの最初の大きさや、命が生まれることは1億円の宝くじが100万回あたるのと同じ確率という言葉に関心を示していた。	講師：誕生学アドバイザー
5 川崎市	小4	総合的な学習の時間	命を守る防災	4年生では後期の総合的な学習の時間で「地域の防災意識を高めよう」というテーマで防災学習を進めてきた。3月には東日本大震災の時期に合わせて防災のまとめを行う予定である。岩手県釜石市のできごとを題材に、命の大切さ、命を守ることの大切さを伝えていきたい。	教材：釜石の奇跡”

6	川崎市	小4	総合的な学習の時間	ひがたかAAAプロジェクト	東高津のまちを「安心」「安全」「明るい笑顔」にするためにはというテーマで防災について学習してきた。平成19年の台風では学校が避難所になり、身近である防災への意識が強い。自分たちにできること、伝えたいことを調べ、避難所での生活に必要なものや具体的な備えなどをまとめ、12月には学習発表を行った。10月には地域の防災訓練にも児童が参加した。	
7	川崎市	小4	総合的な学習の時間	福祉 「白幡台に住むみんなが幸せな街にするために」	白幡台に住んでいるみんなが幸せに暮らすために、どんなことができるかについて、学習課題を立て調べることにした。白幡台には、様々な人が一緒に暮らしていることに気づき、世の中にはユニバーサルデザインやバリアフリーなど、多方面でみんなが安心して暮らせる工夫がなされていることが分かった。自分達にも、みんなが幸せに過ごすためにできることはないかを考えるため、お年寄りや1年生との交流を行った。その中で、相手の立場になって考えることの大切さや、目の前の人に向けた声掛け、支援が必要であることに気づいていた。	講師：（特別養護老人ホーム職員）（長尾福祉会職員） 1年生（交流学年）
8	川崎市	小6	総合的な学習の時間	防災教育・自分の命は自分で守る	関東直下型地震のシミュレーション動画を見たり、今までの自分の知識や経験を思い起こしたりして、実際に自分がどんな状況に置かれそうかを考えた。子ども達は、記憶に新しい能登半島地震の被害と比べて、約100倍の規模の被害が出る想定がされていることに気が付いた。授業後、「家から避難所までの行き方を複数知っておくことで、道路に亀裂が入って通らなくなったときにも安心だ。」「自分の家の周りのハザードマップを確認しておきたい。」など自分事として捉え考える様子が見られた。	川崎市に大地震が起きた日（川崎市総務企画局危機管理室より学校に送付されたもの）
9	川崎市	小複合	総合的な学習の時間	「防災学習日」	岡上町内会の防災訓練が行われるのに合わせて、岡上小の児童も参加させていただいた。各学年の実態に応じて学習の内容は異なるが、シェイクアウト訓練・起震車体験・消防団の活動・地域の安全確認・岡上の町の特性についての講話を通して防災について学んだ。	・町内会防災担当 ・消防団 ・消防署 ・町内会長
10	川崎市	小4	総合的な学習の時間	「そなえて安心・安全バッチリ！～長沢防災力アップ大作戦～」	災害に対する自分の家や家族の備えを見直す活動を通して、備えておくことの必要性や避難行動と日常生活との関わりを考えた。区の危機管理担当の方に話を聞いたり、防災センターを見学したりした体験から、MY備蓄リストを作り、自分や家族の安全について意識しながら生活したり、自分ができることを進んで見つけたりする姿につながった。	社会科「水はどこから」「災害から町を守る人々（地震）」 国語「もしものときにそなえようリーフレット」
11	川崎市	小3	総合的な学習の時間	下河原のたからもの	下河原小学校は多摩川に面していて、豊かな自然が目の前に広がる。生活の中で多摩川にふれあうことが多くある。しかし、多摩川の川の中にどのような動物や魚、虫がいることはあまり知られていない。そこで実際に川の中に入り捕まえてみたところ、多くの生き物が住んでいることがわかった。そこから多摩川を見つめ、大切にしようとの学習が始まった。実際には調べたことをまとめおうちや人や他学年に知らせ、環境を大事にすることが生きているすべての命を大切にすることにつながることを伝えた。	（多摩川クラブ主宰） 講師にお招きして、多摩川ガタガタ探検を行った。多くの生き物が人間と共存する事実を知り、多摩川に対する愛着心を培った。

12	相模原市	小4	総合的な学習の時間	福祉を通して、人との関わり方を考えよう	上溝小学校は今年創立150周年を迎え、総合的な学習の時間では「伝えよう上溝の良さ」というテーマで学習を行った。その中で4年生は、地域の視覚障害、聴覚障害のある方と交流し、それぞれの抱える困難さについて学んだ。そして自分たちが前年度作った「上溝かるた」で一緒に遊び、上溝のことをもっと知って欲しいという願いを持った。そこで、一緒に遊ぶにはどのような工夫が必要かを話し合った。どんな人でも楽しく活動するために、相手の立場に立って自分たちにできることを考えることができた。	講師は視覚障害、聴覚障害のある地域の方。
13	相模原市	小4	総合的な学習の時間	福祉体験	外部のスポーツクラブの方々に講師としてきていただき、実際に車椅子バスケットを体験した。基本的な操作やシュートをするなどの体験を通して、上半身だけの動きの難しさを実感している様子だった。また、体験後の感想の中には、「車椅子の人はかわいそうだと思っていたけど、自分たちと同じように楽しく生活していることがわかった。」や「困っていたら助けてい。」などの感想を持つ児童がたくさんいた。	湘南スポーツクラブ
14	相模原市	小6	総合的な学習の時間	星野富弘さんの生き方から、命について考える	まずは作品を見て感じることを伝え合った。その後、その作品の作者はどんな人物なのか伝え、その上で感じたこと、考えたことを話し合った。身体的障害があっても、本人が今までに出会った人々に支えられ、生きていこうとする生命の強い意志があることを知った。体験活動を通して、強い意志をもって生きていくことの素晴らしさや命の大切さについて、児童それぞれが考えをもった。	富弘美術館
15	相模原市	小3	総合的な学習の時間	農業	農業は、命に関わる重要な活動である。農業によって食物が生産され、人々の生命を維持する基盤が築かれる。 また、農業は生態系や環境にも大きな影響を与える。持続可能な農業の実践は、生態系のバランスを保ちながら食糧生産を行うための重要な要素である。そのため、相原高校の学生と連携して農業体験をすることで、農業は単なる経済的な活動だけでなく、生命の循環と密接に結びついているということに気づかせた。	相原高校高校生
16	相模原市	小4	総合的な学習の時間	福祉学習～車椅子バスケットボール選手との交流～	車椅子バスケットボールチームに所属する選手による交流会を行った。選手の自己紹介、車椅子バスケットボールとの出会いや競技のルール、競技用車椅子の乗車体験及び選手との車椅子バスケットボールの試合を行った。 選手による講演では、選手が感じる日常生活の困難さや車椅子バスケットボールとの出会いや、今後の目標について語っていただいた。 車椅子体験では、競技用車椅子を操作しながら競技をすることの難しさを知ると共に、選手と一緒に試合をする楽しさを体験することができた。	車椅子バスケットボールチーム 「相模原フォース」の選手2名
17	相模原市	小6	総合的な学習の時間	卒業に向けて	卒業式で合唱する歌「いのちの歌」の歌詞について、話し合い、考えました。命とは？歌詞に込められた想いを学年全体で共有しました。命の大切さを実感し、これまで自分を支えてくれたたくさんの人々に対する感謝の気持ちを、より高めることができました。	

18	相模原市	小5	総合的な学習の時間	「人権の華運動」	<p>人権の花運動を行い、人権擁護委員の方々から話を聞いた。人権擁護委員の方々は、それぞれの辛い経験などを踏まえ、人権や命に関わる話をしてくれた。児童は頷きながら真剣に話を聞いていた。その後、友だちと協力しながらパンジーを植えた。児童に今後の活動についてどのようにしたいか問いかけると「最後まで自分たちで世話をしたい」と、小さな命も大切にしようとする姿が見られた。児童が自分なりに思いを綴ったプランターの札には、人権に関する内容や、命を大切にするという内容が書かれていた。中には、1年生にも命の大切さが分かるように易しい言葉で書いている児童もいた。</p>	人権擁護委員
19	相模原市	小5	総合的な学習の時間	米作り	<p>5年生は毎年地域の方に聞きながら田植え、稲刈り、脱穀を体験している。10月に稲刈りし、脱穀したあとの米を大切に拾い集めて米袋に入れた。ふだん食べているご飯が一粒一粒の「いのち」の集まりであること、一年かけて色々な作業を経てつくられることを学習した。その後、収穫した米をどうするか考えアイデアを出し合うことで、食料生産について、つくる人の思いについて、考えることができた。</p>	
20	相模原市	小4	総合的な学習の時間	「保育園児との交流」	<p>4年生は年間を通し、総合的な学習の時間で「ふだんの暮らしをシェアに」のテーマのもと、福祉の学習を進めてきた。「自分とは違う立場の人を思いやる気持ちを育む」をめあてに、手話、パラスポーツ体験（ゴールボール・ボッチャ・車いすバスケ）等を行ってきた。保育園との交流では、保育園に行き1歳～6歳の子ども達と遊びを通してふれ合った。児童は「保育園の子に好きな遊びを聞いてから遊ぶ」等のめあてをもって交流に行った。終了後、児童からは「楽しそうに笑ってくれて嬉しかった」や「自分から声をかけたら楽しく遊べた」等の感想があった。</p>	
21	相模原市	小3	総合的な学習の時間	「SDGsの学習」	<p>SDGsの学習をする中で、目標4の「質の高い教育をみんなに」と目標5の「ジェンダー平等を実現しよう」をテーマにクラスで意見交換を行った。目標4では、不登校やいじめ問題の現状を把握し、学校生活をより良いものにするためにも、一人一人が他者のことを考え生活していかなければいけないことを共有した。目標5では「女性の人権」について考え、「男女で差があることを知らなかった」「これからは男女仲良くすることを大切にしていきたい」等、自己を見つめ直し考える姿が多く見られた。</p>	(参考資料) NHK for SchoolのSDGs関連動画

22	相模原市	小5	総合的な学習の時間	世界の人々が住む環境について考えよう	<p>クラスの実態として、給食を残す児童が多かった。そこで世界の人々がどんな暮らしや食事をしているのか調べることにした。その中でSDGsのユニセフのホームページを資料とし、SDGsの目標の「貧困をなくそう」と「飢餓をゼロに」について調べた。学習を進める中で、世界では一日の食事のままならない人や、数秒に一人子どもが飢餓で亡くなっている現実がわかると、食事のできるありがたみや、今の日本の生活がとても恵まれていること、普通に生活できるありがたさに、気づく児童が多かった。給食についても、食べられるものはしっかり食べようという意識が芽生えた。</p>	SDGs ユニセフホームページ
23	横須賀市	小5	総合的な学習の時間	食教育「よこすか和食手作り計画」	<p>給食の食べ残しなどが多い学年であることから、いのちをいただく「いただきます」の意味を実感させることなどを狙った実践。畑を田んぼに作り変えるところからスタートし、市内の農家の方たちとの出会いを通して、その良さを広めようと一緒に活動していった。生産者の願いや販売を促進していこうとする行政の方々の思い、そしてお店でよこすか野菜を使った料理を提供されている方の思いには、「地元をほこりに思っていてほしい」という共通点があることにも気づいていった。最後には、自分たちで育てた野菜を自分たちで食べることで、「いのちをいただく」という実感を持ち、感謝の気持ちをもって食事する意識が高まった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 横須賀市経済部農水産業振興課 JAよこすか葉山
24	横須賀市	小6	総合的な学習の時間	富山大空襲被爆経験者のお話	<p>富山大空襲について 1945年8月2日午前0時36分、米軍のB29大型爆撃機174機が、富山市中心部に50万発以上の焼夷弾を投下し、町は一瞬にして焦土と化した。この「富山大空襲」は市街地の99・5%を焼き尽くし、被災した人はおよそ11万人、亡くなった人は2700人を超え、地方都市としては人口比で最も多くの犠牲者を出した。</p> <p>戦争のあった時代に生きた人の実体験を伺うことで平和について考える時間とした。当時の大変だったお話を伺い、子どもたちの戦争の怖さや悲惨な状況を改めて認識することができた。【今の若い世代に伝えたいこと】に質問に対しては、今後、未来を切り開いていく子供たちに対する素敵な励ましの言葉を頂いた。</p>	被爆経験者の方
25	横須賀市	小5	総合的な学習の時間	お米探検隊～お米作りを通して環境問題について考えよう～	<p>横須賀の食料生産、その中でも特に農業をテーマとして扱い、自分達でも米を育てる体験をする中で、作物を育てるためには様々な努力が必要なことや、農業に関わる方の願いや工夫があることに気づいた。そして、ここから見出した課題を全体で交流したり共有したりする中で探求課題を設定し、調べたり、農家の方の話を実際に伺ったりする中で課題を自分ごととして捉え、解決していくことを目指した。また最後に、自分達にできるアクションプランを考え、発信する活動を行った。</p>	山形県本楯地区米作り農家の方
26	横須賀市	小3	総合的な学習の時間	福祉	<p>後期は、身の周りの福祉について学んだ。目の見えない人について学ぶために、アイマスクをつけて教室内を歩く活動を行った。実際に体験してみると、周りが見えないということへの不安感や恐怖を味わうことができ、視覚障害のある人々の生活の仕方や、他の障害についても学びたいと思った児童が多かった。また、どんな人でも使いやすいユニバーサルデザインについて調べ、紹介する活動を通して、様々な人たちが暮らしやすい町づくりについて学び、自分たちの生活を見直すきっかけになった。</p>	福祉に関する学校図書インターネットの情報

27	横須賀市	小4	総合的な学習の時間	福祉 当事者目線の社会や暮らしについて	社会の中の福祉に関わることに目を向けた総合的な学習の時間の調べ学習をしている中で、障害を持つ方の困り感やその方たちに出会ったときに自分たちにできることは何かを知るために、当事者目線の社会やくらしづくりに神奈川県として取り組んだり、意識づくりを進めたりしていることを県担当課の職員の方からお話を聞いた。また、実際の視覚障害を持つ当事者の方からもお話を伺い、実際の生活の様子や支援の仕方などを知り、自分たちにできることを話し合った。	講師 県 福祉子どもみらい局 共生推進本部室 当事者目線障害福祉グループ 担当職員
28	横須賀市	小複合	総合的な学習の時間	「自分磨き大作戦」	ビオトープの観察をして、ごみの多さに掃除が必要なのか考えた。そこに暮らしている生き物に対して落ち葉やお菓子のごみが害になることをインターネットで調べた。そこで、生き物が住みやすいように落ち葉やお菓子のごみを拾い集めた。児童が感じたことを実践することは初めてだったので、積極的に活動でき、生き物に対して命の大切さに気付けた内容だった。	クロームブックを使って生き物調べ
29	横須賀市	小4	総合的な学習の時間	福祉について考えよう	総合的な学習の時間として、福祉についてを1年間を通じて学習を行っている。手話・点字体験・車いす体験や聴覚障がい者や視覚障がい者、社会福祉協議会の方々と関わることで障がいについてより近い距離感で学びを深めてきた。そしてすべての人が住みやすく暮らせる社会に向けて、改めて久里浜の街を障がいの視点から探検するなど『自分たちができること』を考えようとする姿が見られた。	横須賀市 社会福祉協議会
30	横須賀市	小4	総合的な学習の時間	防災教育「富士見防災レスキュー守り隊～みんなで知る防ぐ～」	前年度は、災害時に向けて干し野菜や保存食を作った。しかし、災害について詳しく知っている児童はほとんどいない。そこで、オリエンテーションで前年度の学びを振り返ることで、児童に防災に対する課題意識が芽生えさせることができた。そのため、年間を通して「防災」をテーマに活動に取り組んできた。 本単元では、いずれ起こるであろう自然災害の起こり方や防ぎ方を調べ、発信する活動を行った。被災された方にインタビューしたり、起震車などで実際に体験したりする中で、防災に対する切実感を持たせることができた。また「地域のみなさんの守る」の合言葉の下、2月には、地域の新聞に学習のまとめを掲載させていただき、防災について発信した。	【講師】 横須賀南消防署西分署 町内会長 【教材】 社会科（自然災害からくらしを守る） 国語科（新聞を作ろう） 道徳科（レスキュー隊） YOKOBOカード
31	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	福祉「盲導犬ユーザーのお話」	盲導犬ユーザーのお話を伺う。視覚障がい者の生活の工夫について、視覚障がいがあってもいろいろなことにチャレンジできること、盲導犬の仕事をしている時とそうでない時の違いについて、困っている視覚障がい者に気づいた時の声の掛け方、障がいや盲導犬に対する正しい理解が広まってほしいという思いを聞いた。実際に児童が道案内の誘導を実践したり、ハーネスを外し仕事をしていない状態の盲導犬とふれあったりし、今まで遠い存在に感じていた視覚障がい者を身近に感じ、自分から積極的に関わろうという気持ちが芽生えた。	鎌倉市福祉協議会 (福祉教育プログラム)
32	湘南三浦	小6	総合的な学習の時間	平和学習	パレスチナ問題について、現地の人たちの生活の困難さや歴史を調べ、まとめた内容をタブレットと大型モニターを使い、他の学年へ伝える。調べた内容を振り返り、自分たちの生活の有難さを改めて考える。	6年担任 児童が選択したウェブサイト

33	湘南三浦	小複合	総合的な学習の時間	平和の話の聞く会	平和・人権を大切にできる心情を育て、平和・人権を守っていこうとする児童の育成のため、国の指定難病「多発性硬化症」患者である車いすのシンガーを講師に招き、自分では気づかずにしている偏見や相手の立場で考えることの大切さなどについて考えるきっかけとなるとともに、命の大切さを感じることができた。	講師は、歌手・歌う講演家
34	湘南三浦	小3	総合的な学習の時間	大豆のひみつ教えます	4月から、理科の「植物の育ち方」の学習で大豆を育て始めた。この大豆は、「大豆100粒運動」と連携して提供していただいた神奈川の自生種である。成長記録を取り、9月には枝豆として収穫して食べた。10月には、国語「すがたをかえる大豆」で、大豆は昔から日本の食生活と密接に関わり、今では健康食材として注目されていることをおさえた。大豆として収穫後は、3月に豆まきをした。大豆という植物の一生を観察しつつ、食べ物としての大豆の命をいただいて、自分たちの命が支えられていることを実感させ、1年間のまとめとした。	(使用教材) 大日本図書・理科3年 「植物の育ち方」 光村図書・国語3年 「すがたをかえる大豆」
35	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	福祉について考えよう	「福祉とは何か。」について、インターネットを使って学んだ後、具体的に視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由について学習を進めていった。授業では、アイマスクや点字、車椅子などの体験活動を多く取り入れた。調べ学習で知識を得るだけでなく、体験活動を通して「感じる」活動も多く取り入れ、「どんなことが困るのか。」「どうしてもらおうと助かるか。」など自分事として考えることができた。世の中にどんな人がいて、自分ができることは何かについても考えることができた。身の回りにあるバリアフリーやユニバーサルデザインに気づく児童もいた。	(参考資料) 心のバリアフリーハンドブック (藤沢市)
36	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	他者理解 国際理解	絵本を通して、ムスリムの生活を絵本を通して知ること、他者理解だけでなく、世界にはいろいろな宗教があることを理解することができた。	(参考資料) エルくらぶ 「ラマダンのお月さま」
37	湘南三浦	小6	総合的な学習の時間	地震や津波から身を守ろう	1学期に社会科で学習した「災害から守る政治」で学んだ、地震被害やその後の対応についての発展学習。9月には地震・津波の仕組み、10月にはハザードマップについて学び、11月には実際に地域の津波避難ビルについて、地域の協力を得ながら散策、逃げマップを作成した。12月には、マップをもとに、課題と解決策について考えた。	鶴沼公民館
38	湘南三浦	小6	総合的な学習の時間	「地震、そのとき自分は…」	自分たちが生活する地域で地震による災害が起きた場合、様々な防災対策が取られていることを学んだ。避難訓練、ハザードマップ、帰宅支援マップ、防災倉庫の設置、緊急避難場所の整備など、様々な対策をしているということについて話し合った。東日本大震災の時に岩手県釜石市の小中学生がほぼ全員無事だった例をあげ、日頃から真剣に訓練に取り組んだ結果から校内放送を聞かなくても上級生が下級生の手を引き、自主的に命を守る行動が取れたことに児童は感銘を受けていた。	(他教科との関わり) 理科「土地のつくりと変化」
39	湘南三浦	小6	総合的な学習の時間	戦争と平和	公益財団法人長崎平和推進協会の方にリモートで戦争体験の講演をして頂き、平和の尊さについて考えた。	

40	湘南三浦	小6	総合的な学習の時間	茅ヶ崎小学校のシンボル・憩いの場として愛されている丸池を題材にし、丸池や、丸池付近の調査活動を通して、生き物（動物・昆虫・植物）に着目した課題解決学習を実施した。 昨年度、丸池の生き物が大量に死んでしまった事件を受け、生き物が住みやすい環境とはどんなものなのかについて調べ、改善をはかった。また、他学年にも生き物を大切にしよう、呼びかけ活動を行った。	講師・協力 ・景観みどり課 ・PTAフラワーレンジャー 教材 ・学校内の中庭付近 ・丸池 ・旧ウサギ小屋
41	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	GAPプログラム いじめ、虐待、体罰、誘拐、痴漢、性暴力などからどのようにして身を守るかについて、ロールプレイを交えながら考えた。その後、個別に相談を受ける時間を設け、希望者は現在抱えている悩みについて相談した。	認定NPO法人 エンパワメントかながわ講師
42	湘南三浦	小6	総合的な学習の時間	平和について考えよう 広島、長崎での被爆体験を聞き、原子爆弾の恐ろしさを知るとともに、平和や命の大切さを改めて感じる。	神奈川県逗子市被爆者の会 つばきの会 提供資料
43	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	海の生き物博士になろう 春の高抜海岸を探検し、三浦の海岸には実に多くの種類の生き物が生息していることに気づいた子どもたち。生き物を観察したり触れ合ったりして自然を存分に味わった。夏にも同じ高抜海岸に行ったところ、春にはたくさんいた「アメフラシ」がいなくなっていることに気づいた。その理由を解明すべく、図鑑で調べたり専門家に聞いたりして、「アメフラシは産卵を終えていなくなってしまう」という事実にとどり着いた。他にも自分の興味をもった生き物を調べ、図鑑づくりに取り組んでいる。このような学習を通して、生き物の「いのち」の存在を感じることができた。	講師 三浦市教育委員会 (元水族館飼育員の方)
44	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	いのちのかがやき～地域の先輩と交流しよう～ 社会には様々な人々がともに生活している。地域で活動している方・スクールガードさん・盲導犬とそのユーザー・車いすや手話で生活している方などである。その方たちに話を聞いたり一緒に活動したりする中で様々な生き方に触れてきた。みな、それぞれが自分らしく「いのち」を輝かせながら生きていくことを学んだ。地域で様々な人がお互いに助け合いながら生活していることに気づき、自分の生活を見つめ直す機会にもなった。自分らしく「いのち」を輝かせたいという思いをもつことができた。	地域のお年寄り スクールガード 車いすや手話で生活している方 盲導犬とそのユーザー
45	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	いのちの尊さ 「ふれあい体験」の中で、町の子ども育成課との連携の元、実際の妊婦さんにいらしていただき、大変さをお話して頂いたり、妊婦さんになった時の重さを体験したり、人形を抱っこして赤ちゃんの重さを体験するなどの体験やふれあいを通していのちの尊さを育んだ。	
46	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	障害福祉 ・視覚障害者とのふれあい、講話や目隠し体験を通して、視覚に障害をもつ人たちの抱える困難や生き方について知り、自分の生活について考えることができた。 ・聴覚視覚障害者とのふれあい、講話を通して、視覚に障害をもつ人たちの抱える困難や生き方について知り、自分の生活について考えることができた。 ・車いすユーザーとのふれあい、講話や車いす体験を通して、車いすユーザーの抱える困難や生き方について知り、自分の生活について考えることができた。	町の社会福祉協議会

47	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	海を守る～アマモの再生活動を通して～	環境教育の一環として、葉山町の漁業従事者、地域のダイバー、地元企業の研究者の協力を得て、「アマモ再生活動」に取り組んでいる。 地元漁師及び研究者の方から、アマモの減少状況とアマモを再生させていくことの意義やその方法などについてお話を伺った。その後、実際に、紙ポットに土を入れ、アマモの種をまいた。ポットは、プールサイドの大型水槽で育苗し、児童はその様子を春先まで継続して観察する。	・鹿島建設葉山水域環境 実験場主任研究員 ・助手 ・葉山町漁師の方
48	県央	小4	総合的な学習の時間	福祉教育～人にやさしくプロジェクト～	この学習は、社会「災害にそなえるまちづくり」と総合「福祉」とかけあわせ、「人にやさしくプロジェクト」として、1年間を通して取り組んできた。初めに、困難や障害がある人がいるということ、誰にでも苦手なことがあり、互いに助け合って生きていくこと、共生することが大切であるということ等を学んだ。その後、車いすバスケットボールや点字など、様々な体験活動をしたり、本やPCを用いて自主的に調べ学習をしたりした。これから防災訓練を実施し、様々な人がすごしやすい避難所を設置したり、調べたことを発表したりする。	
49	県央	小4	総合的な学習の時間	校内防災教育	学校内の危険箇所をタブレット端末等で撮影し、どのような事故や怪我が起こりそうか模造紙などにまとめた。地震が起こった時に危険となる固定されていない物や、休み時間のはじめに階段から降りてきた子と廊下から歩いてきた子がぶつかりそうな場所など子どもらしい視点でまとめ、発表することができた。	
50	県央	小5	総合的な学習の時間	米づくり	年間を通して、田んぼで稲作を行ってきた。稲作を通して人は動植物の命をもらって生きているということが分かった。生きることとは食べることであり、日々、命をもらって自分の命を紡いでいるということ等を話し合いながら深く考えた。実体験を基にすることで多くの児童が自分事としてとらえ、意見を述べていた。話し合いが進むと毎日不自由なく食事がとれる私たちは幸せで、そうでない人々のために何ができるか考える児童もいた。	講師は、地元の農家の方
51	県央	小4	総合的な学習の時間	いのちの授業	「いのち」はかけがえのないものであることをお話してもらった。「みんなが生まれる前は、どこにいたか知っているか」という問いかけから、赤ちゃんがお腹の中にいたことを確認し、お腹の中でどのように育ったのかを知った。また、お母さんが苦しい思いをしながらも自分たちのことを産んでくれたことを知り、自分の命も友達の命も大切にしていこうとする気持ちが高まった。	講師は、助産師と保健師。赤ちゃんの人形やスライド、DVD
52	県央	小複合	総合的な学習の時間	情報モラル	各学年1時間ずつ、体育館に集まり、出張講師の話や動画を視聴しながら、ラインなどのSNSの危険性や注意点を知り、相手の気持ちを考えながら、適切な言葉の使い方を考えるワークを行った。	教育ネット・出張講師

53	県央	小6	総合的な学習の時間	いのちの授業	<p>7月10日（月）に、海上自衛隊の方を3名、講師としてお招きし、出前授業をしていただいた。</p> <p>6年生2クラスに、1クラスずつ授業をしていただいた。海上自衛隊の活動内容などについて、豊富な資料を、用意していただいた。</p> <p>また、大型画面で、各クラスの児童に分かりやすく説明していただいた。児童からの質問にも丁寧に答えていただいた。児童は、海上自衛隊の活動内容を知ることとおして、いのちの大切さについて、よく理解することができた。</p>	海上自衛隊隊員
54	県央	小6	総合的な学習の時間	いのちの授業	<p>10月27日（金）に、大和市消防本部の方を2名、講師としてお招きし、出前授業をしていただいた。</p> <p>6年生、2クラスが、合同で体育館に授業をしていただいた。</p> <p>心肺蘇生法や、AEDの使い方などについて、そのやり方や使い方について詳しく教えていただいた。また、児童からの質問にも丁寧に答えていただいた。</p> <p>児童は、消防士の方の救急救命活動の内容を知ることとおして、いのちの大切さについて、よく理解することができた。</p>	消防署職員
55	県央	小4	総合的な学習の時間	命	<p>命がどのように誕生し、どのようにお母さんのお腹の中で成長するのかを、助産師さんの話を聞き学びました。また、出産の様子を映像で見たり、赤ちゃんの人形を抱いたりする体験も行い、命の尊さについて学びました。</p>	大和市立病院助産師
56	県央	小3	総合的な学習の時間	すがたを変える大豆	<p>1学期に大豆の種を植え、水やり、観察を続け、植物が生長していく過程を学びました。収穫した大豆を使い、きなこもち作りを3月に行う予定です。</p>	国語「すがたを変える大豆」
57	県央	小4	総合的な学習の時間	やまと♡いのちの教室	<p>○いのちの始まる話を聞く。胎児がおなかの中で自ら誰にも教わらずにやっていること、胎児のすごいところを知る。</p> <p>○出産の様子を知る。</p> <p>○出産の様子をDVDで見る。</p> <p>○生まれた後の話を聞く。</p> <p>○赤ちゃん人形を抱っこする。</p>	<p>講師： 市立病院看護部4階東病棟 助産師 こども部すくすく子育て課 保健師</p>
58	県央	小6	総合的な学習の時間	命の授業「応急手当」	<p>消防署の方に来ていただき、一人一つ心肺蘇生に使うキットを使って、傷病者を発見してから救急車が来るまでにできる手当の仕方について教わった。子どもたちは、救急車が来るまでに行う措置の大切さを知り、真剣に演習に取り組んでいた。また、実際に起こった事例の動画を視聴し、身近でそのようなことが起こる可能性があることに驚いている様子だった。そのような場所に居合わせた時に、自分ができることを進んでるできるようになりたいと前向きに振り返っていた。</p>	消防署の職員の方2名 一人一つ演習用のキットがあったので、全員で取り組めた。

59	県央	小6	総合的な学習の時間	「いのち」について考えよう	1年を通して、「いのち」という大きなテーマを、差別・災害・いじめ・戦争・命の誕生などに分類し、児童が自分が最も興味を持ったものについて調べるという形で学習を進めている。1学期、2学期には命について「知ること」を進めており、それぞれのテーマに関連する動画を見せたり道徳や国語の教材と絡めたりして命の大切さについて理解を深めさせた。そして、現在世の中で抱えている問題に対して自分たちができることは何かを考え発表した。3学期には、グループごとに興味を持ったテーマを設定し、クラス単位でプレゼンテーションを行う予定である。	
60	県央	小4	総合的な学習の時間	「みんなで楽しく！ニュースポーツを考える」	総合的な学習の時間で車椅子バスケットボールやブラインドサッカーを体験した。その中で年齢、性別、障がいの有無等をこえ、みんなで楽しめるニュースポーツを開発し、地域の人々と楽しむイベントを企画した。低学年や地域の高齢者が一緒に楽しむルールや安全な場の環境を考えながら、多様性を尊重し、助け合うことの大切さについて考えを深めていった。	車いすバスケットボール チーム「SAGAMI FORCE」 ブラインドサッカー [buen cambio y okohama]ブエンカンビオ横浜
61	県央	小5	総合的な学習の時間	災害時に身を守るためには	防災士を招いて、地震についての話を聞いた。過去の地震の被害状況や日頃からの備えの大切さを学び、いのちを守るために自分たちができることを考えた。年間を通して行っていく防災教育への導入として、防災への関心意欲を高めることができた。	講師は防災士 被災地の写真を活用することで具体的な状況を把握できた
62	県央	小5	総合的な学習の時間	防災 学校で地震が起きた時に命を守るためには	「学校内のハザードマップを作る」ということをめあてとして調べ学習を行った。地震に対する正しい知識を持たせ、学校生活における危険箇所とその回避方法の調査、まとめ、発表を行った。学校の危険箇所を探すというテーマから高い目的意識を持たせて活動させることができた。取り組んだ活動が自分のためだけでなく、全校児童のためになるという面も子どもたちにやりがいや達成感を持たせることにつながった。防災への意識と命を守ることにに対する意識の高まりが見られる授業となった。	
63	県央	小4	総合的な学習の時間	命を守る防災教育	「防災クロスロード」いつ起きてもおかしくない地震について考える授業。「学校にいる時に地震が発生！みんなで避難することに。しかし友達が一人見当たりません。その時、あなたならどうする？」などのような問いに「yes」か「no」で答える。明確な答えがない質問に対して、それぞれに判断し、友達と意見交換した。どうすれば命を守れるのかについて事前に考えを持っておくことが大切という思いを深めることができた。	防災クロスロード
64	県央	小6	総合的な学習の時間	米作り	全学年で作業分担しながら米作りに取り組んでいる。6年生は、はざかけ、わらすぐり、わら細工、もちつきを体験した。食べる部分だけでなく、全てが使用される稲に感心したり、作業の大変さを感じながらも、昔から主食として大切にされる理由を実感できた。また、地域の方や生産者の思いについても考えることができた。	
65	県央	小5	総合的な学習の時間	防災	東日本大震災の被害状況や2次災害について動画を視聴し、地域や学校の備えや備品などを調査した。そして、自分の備え（持ち出し袋）について考えた。備えがあることで防げる被害もあり、自分事として考えることができた。	

66	県央	小4	総合的な学習の時間	福祉について知る	総合的な学習の時間に、様々な種類の福祉体験を行った。まず、福祉とは何か、また、どんな困り感があるのかを共有して、障害がある方々へ意識を向けた。また、自分の興味のあるテーマについてグループを作り、調べ学習を進め、調べたことを発表することを通して、互いに学びを交換した。手話サークルの方や車いすの方をお迎えして、実際に体験してみると、周りの助けが必要となることを感想としている児童もいたことから、日常生活の中で自分たちができることについて気づくことができた。	点字体験 妊婦体験 高齢者体験 手話サークル・車いす体験
67	県央	小6	総合的な学習の時間	救急救命の方法について知る	BLS[(Basic Life Support) 心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置のこと]について、学習をした。 まず、BLSとは何かについて事前学習 (DVDの視聴) を行い、全体の大まかな流れを掴んだ。その上で、消防署の隊員の方に来ていただいて、心配蘇生法の体験を行った。心肺蘇生の手順を習ったあと人体模型で実際に心肺蘇生を行った。AEDの使い方を学び、学校内外での安全についても触れることができた。	消防署職員
68	中	小3	総合的な学習の時間	生命の尊さ	かいこの飼育を通して、人間が生きるということについてクラスで考えを深めた。	学習室
69	中	小6	総合的な学習の時間	防災について	総合的な時間の学習では、年間を通して地域の防災や自分にできることについて考えてきた。児童の実態としては、地域で行われた「あさひ学BOUSA I」に参加した児童が数名おり、防災に対する意識の差が大きいように感じた。その中で、1月1日に起きた能登半島地震。地震の被害を初めてリアルタイムで見る児童が多く、命を守るための行動や道具などにより一層関心をもつ児童が増えた。グループに分かれ、調べた内容、考えた内容をタブレット端末にまとめる活動を行った。救命活動についてまとめている班では、実演を交えながら説明を行い、一人一人が命を救う行動をとる大切さについて理解していた様子だった。 今後、まとめた内容を保護者に発表し、地域での防災、いのちの大切さについて考える機会としたい。	学級担任
70	中	小5	総合的な学習の時間	米作り体験活動 (もち米)	田植え・害虫駆除・稲刈りの方法を調べて体験する中で、食糧生産の苦労や大切さを知り、生産者や食物への感謝の気持ちを育めるよう授業計画を立てた。ライスセンターの方やJAの方々などの協力の上で、手植えや手刈りだけではなく、田植え機やコンバインなどを使用した作業も見せていただいた。もち米ができるまでの過程を考え、調べ、経験できたことで、自分たちが生きるために食べる、食物のありがたみを感じる事ができた。	・ライスセンター ・JA湘南 ・地主の方々
71	中	小3	総合的な学習の時間	カイコの飼育	理科の授業で、昆虫の生態を学んだことをきっかけに、総合的な学習の時間でカイコを育てた。カイコを育て、まゆを活用する中で、生き物の命の重みを実感し、生命を尊重する気持ちを育むことができた。	横浜シルク博物館よりカイコの卵を提供していただいた。

72	中	小3	総合的な学習の時間	福祉学習	一年間を通して、福祉について学習を深めた。ゲストティーチャーを招いて、講話を聴いたり、車いすバスケットボール体験や高齢者疑似体験を行ったりした。学習していく中で、周りの人を思いやる気持ちや周りの人と支え合って生きていくことの大切さに気づき、自分には何ができるのかについて考えを深めることができた。また、体の不自由な方と交流することによって、困難があっても前向きに生きる姿勢を学ぶことができた。	高齢者疑似体験：平塚市社会福祉協議会 車いすバスケットボール体験：相模フォース
73	中	小6	総合的な学習の時間	総合のテーマ「生き物となかよし」の一環として「いのちの授業」	神奈川県動物愛護センターにはどんな理由で動物たちが収容されているのかをまず教わった。神奈川県の動物の殺処分件数はゼロだが、全国ではまだ殺処分が行われていることや、収容される動物が増えれば殺処分をせざるを得なくなることを知り、どうすれば動物愛護センターの動物をゼロにすることができるかを考えた。さらに、具体的な手立ては何かまで意見を出し合った。児童は人間の都合で失われる命があることを悲しく思い、知った事実を他に広げることが自分たちができる協力の一つだと学んだ。	講師は神奈川県動物愛護センターの職員 スライドで写真やグラフを見せていただき、イメージしやすかった
74	中	小3	総合的な学習の時間	パラリンピックスポーツについて	国語科の単元「パラリンピックが目指すもの」の学習を発展させ、総合的な学習として、1学期に調べたパラリンピックスポーツの中から選び、実際に用具を借りて体験してきた。パラリンピックの種目にもなっているボッチャやゴールボールなどを体験することで、体に障害のある方でも、障害のない健常者も誰でも楽しく取り組めるスポーツであることを学ぶことができた。また、社会福祉協議会と連携して行った福祉教室（サウンドテーブルテニス）では、実際に視覚障害があり、趣味としてサウンドテーブルテニスを行っている方を講師としてお招きし、普段の生活で困っていることなどのお話もしていただいた。何気ない日常生活の中でも、視覚障害のある方が苦労されたり、困ったりしていることに気づくことができ、様々な立場の人がいることを学ぶことができた。	(講師) ・秦野市西上地区体育協会の方 ・秦野市社会福祉協議会の方 ・秦野市誘導赤十字奉仕団の方 ・視覚障害者の方 (教材) ・神奈川県立体育センター ・秦野市スポーツ協会から用具を借用
75	中	小3	総合的な学習の時間	防災学習～自分の身を守るには～	児童が調べ学習と体験に取り組んだ。1学期は身近に起こりうる自然災害とその対策について図書やインターネットを使って調べ、学校や自宅周辺の危険について調査をした。2学期には、災害への備えや災害時の生活について調べ、実践を行った。段ボールベッド、簡易トイレ、非常食、電気、食器、スリッパなど児童が自分の興味のあるものについて、自身で材料を用意し作成した。自然災害の恐ろしさ、命を守るための備えの大切さについて学習してから、体験を行ったことで、児童はより実感をもって取り組んでいた。また、実際の災害のときは、ここまで用意ができるのかと問いをもった児童もおり、自分や周りの人の身を守るためにどのような備えが必要なのか、考える機会になったようだった。	

76	中	小4	総合的な学習の時間	防災教育 「地震から命を守る」	関東大震災の半月後、山津波が大山地区を襲った。70戸の家屋が流された歴史がある。この事実から、「防災備蓄倉庫の中に保管されているものの確認」「非常用段ボールベッドの組み立て」を行った。さらに「大山山津波について」の講話を受けた。「地震や土石流などの災害時、消防やレスキューなど『公助』の人たちに助けてもらうイメージがあるかもしれないが、実は『自助』『共助』によって助かる人のことが多い」との説明があった。いつ起こっても不思議でない「そのとき」に備えた準備を、自分で考える児童もいた。	講師は伊勢原市役所危機管理課の職員。モニタに被災地域の状況を表す地図などを映し出し、イメージがもてた。
77	中	小5	総合的な学習の時間	生沢分校小学部による米づくり	4月から米作りを始めた。田植えをして、水の管理や草取り、網かけなど、みんなで一つ一つの作業を丁寧に行った。手をかけるほど、稲は元気に育つことを理解した。稲刈り後は、粳摺りや精米をした。米づくりに協力して頂いた方々には、お礼の意味で米約2合の袋を渡した。手作りした米を小学部のみんなで炊いて食べた。自分達の命は、他の生物を食べることにつながっていること、そしてその生物に感謝することを指導した。	社会科教科書5年生 6年生1名も参加
78	県西	小複合	総合的な学習の時間	ウミガメの命を守ろう	平成30年に学区の海岸で「ウミガメの赤ちゃんが孵化した。」という情報があったことをきっかけに、海のゴミがウミガメなど生き物の命を脅かしていることを学んだ。今年度は環境美化委員会を中心に「ウミガメが来られる海岸にしたい。」という思いから、毎月一度程度、海岸清掃を計画し、縦割りのグループで全校一斉の海岸清掃をした。子どもたちは「ウミガメの命を守ろう。」という思いをもち、総合学習などでのSDGsの考え方とも関連させながら、命について知識と体験を結びつけて学ぶことができた。	・各担任 ・環境美化担当
79	県西	小4	総合的な学習の時間	ふれあいを深めよう	「ふれあいを深めよう」の学習では、手話や車いす、高齢者体験を行った。障がい者の人権について考えるとともに、実体験を通して気持ちに寄り添う学習に取り組んだ。導入では、日常的によく見られる障害に関するマークが何を意味するかを考えた。様々なマークを知ること、それを見たときには、どのような配慮をしなければならないのかの目安になることを学ぶことができた。また、車いすマラソンの映像を見ることで、通常の手いすとは違う作りをしていることに気付いたり、パラリンピックや車いすテニスで活躍した選手の名前を挙げたりしながら、障がいがあるなしに関わらず、様々な場で活躍している人がいるということを知ることができた。車いす体験では、小さな段差での衝撃や手を洗う時の手洗い場の高さなど、健常者が意識していない場所でさえ、車いすで生活している人にとっては困難なことに気づき、障がい者理解を深めることができた。	人権学習ワークシート集 松田町社会福祉協議会 動画「大分国際車いすマラソン」

80	県西	小5	総合的な学習の時間	防災教育	<p>自分たちの住む地域でも近い将来、地震が発生すると言われている。その時に備え、自分たちに、今、何ができるのかを考えた。</p> <p>まず、地域の防災の状況について知り、東日本大震災や関東大震災の映像や資料をもとに、地震などの災害から自分の身を守るための知識や安全な行動について学んだ。実感を伴った理解のために県の総合防災センターに行き、災害の模擬体験をし、その怖さを知った。</p> <p>また、道徳とも合わせて、被災した人々の地域への思い、復興への願いを知り、人や地域を守るためにできることを考えるきっかけとなった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK for SCHOOL (関東大震災) ・NHK 東日本大震災 3.11 伝え続ける ・神奈川県総合防災センター ・道徳の教科書 フェニックス 復興への願い
81	県西	小6	総合的な学習の時間	「SDGsのことを考えよう」	<p>「給食の残食が多い」という学校の実態を栄養士から聞き、総合の学習で【食品ロス】について考えた。栄養士や給食に関わる多くの人たちの思いを受け、子どもたちから「食品ロスについて、全校に広めたい。」という思いが生まれた。その思いをポスターとして、校内に掲示した。子どもたちにとって身近な題材だったので自分事として考えやすく、取り組み後は、「いただきます・ごちそうさま」の意味を意識し、6年生全体の残食が少なくなるなど、【食=命】として、大切にしようという子が増えてきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士をゲストティーチャーとして活用 ・SDGsについてのホームページ
82	県西	小複合	総合的な学習の時間	潮だまりで生物採集・観察を通して普段の生活で目にする陸上の生物や生態系とは違った海の世界を楽しむとともに、それを育む環境を学ぶ。	<p>近くにある舟付海岸において、磯の生物の観察会を行った。講師は海やその生態系を理解してもらおうと努めているディスカバールーの職員3名。講師からの諸注意の後、子供たちは磯の生物を実際に採集した。生物は種類ごとに分けられ、講師から名前や特徴の説明を受けた。最初は磯に入ることや海の生物を採集するのにためらいを感じる子供もいたが、次第に慣れ、普段できない体験に喜びを感じながら取り組んでいた。また、自分たちの身近にこのような豊かな自然や生命の営みがあるということを改めて感じる事ができた。3年生は、この学習を受け、さらに海にはどんな生き物がいるのかインターネット等を活用して調べ、学習発表会で発表した。</p>	<p>ディスカバールー職員 3・4年生対象 総合的な学習の時間</p>
83	県西	小複合	総合的な学習の時間	漁船体験を通して、郷土の人とふれあったり、郷土の地形を理解したりして、郷土を愛する心情を育てる。湯河原近海の自然の豊かさを知り、そこで育まれる命や環境を大切にしなければならないという心情を育てる。	<p>福浦漁港の漁業組合の協力のもと、漁船体験を行った。子供たちは漁船に乗って漁場へ行き、定置網漁を見せてもらった。捕れた魚の名前や特徴、どんな魚が捕れるのか説明もあった。子供たちは湯河原の海の豊かさと、自然環境(命)を大切にしなければならないことを改めて感じる事ができた。</p>	<p>講師 ・福浦漁港の漁師の皆さん 5・6年生対象 総合的な学習の時間</p>